



平成26年3月24日 第3巻(第17号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F  
災害支援チーム TEL (03)3351-5038  
FAX (03)5366-1058  
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

\*\*\*\*\* TOPICS \*\*\*\*\*

## 1. 石巻派遣職員 緊急募集終了のお知らせ

複数の方からご応募いただきました。ありがとうございました。

## 2. 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

### 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。



\*\*\* 目次 \*\*\*

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子(概要から抜粋)
3. 石巻での活動の様子(FaceBook から引用)
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 事務所より

\*\*\* 1. 協力員として参加して \*\*\*

活動期間:2013年9月30日~10月2日

川本 恵(奈良県 秋津鴻池病院)

**感想:**

初めての参加でした。緊張していましたが、現地スタッフの皆さんや他の協力員の皆さんは、とても暖かく迎え入れてくださいました。そして、3日間という短い期間でしたが、大変貴重な経験をさせていただきました。大きくは2つあります。1つ目は、災害は他人事ではないという認識です。私の暮らす地域で災害が起これば、私は地域住民として、ソーシャルワーカーとして、「どのような状況に置かれて何を感じ、どのような行動をするのだろうか。そのときの準備は今何が必要か。」と、被災地を自分の目で見ること考えるようになりました。2つ目は、「ソーシャルワーカーとはどのような存在なのか」ということを、現地スタッフの皆さんがお仕事されている姿やお話から、学ばせていただきました。スタッフの皆さんに少しでも近付けるよう、今回の経験で得た多くのものを、日々の業務に生かせるよう、努力していきたいと思います。

**活動を検討している皆さんへ一言:**

私は、今回行かなければ知らない、分からない事だらけでした。スタッフの皆さんが教えてくださった、たくさんの事に感謝しています。

活動期間:2014年1月20日~1月22日

阪下 潤一(群馬都 医療法人頼原会)

**感想:**

初めに、日本医療社会福祉協会、群馬医療ソーシャルワーカー協会並びに現地スタッフの事前準備・オリエンテーションを含め、現地活動に参加する不安を取り除いて頂いた事に感謝の意を申し上げます。

活動報告になりますが3日間で6件の訪問を実施、震災後3年が経過し様々な変化が生じている事を実感致しました。お話をお伺いしている中で、地域の復興が進んできている中、前向きに考えて民生委員を任命され活動している方、まだまだ医療拒否・介護拒否といった実務的なケアの必要な方、積極的に就活をしているが津波の怖さを実感し海に係る仕事以外で探すもなかなか結果に現れず心のケアが必要な方等々、状況が刻々と変化していると感じました。2日目には社会福祉協議会のエリア主任会議に同席させて頂き、この会議への参加が3日間の活動の中で今後の支援という部分を非常に考えさせられる会議となりました。まず社会福祉協議会を通じて、各地域での取り組み・今後の方針等々が明確になっていた事。コミュニティーの活用方法等々の行政を絡めた環境整備の構築。現地の活動方針が明確に表れている会議でした。この会議に参加し、今後私たちに求められている支援活動は何なのか？もっと積極的に支援活動に参加していく必要性があるのではないのか？現地他団体との交流・行政との関わりを深くしていく事が求められている様に感じられました。最後に、まだまだ支援活動の燈火を繋げなくてはならないと心に刻んだ3日間でした。

#### 活動を検討している皆さんへ一言：

僕は入職2年目の未熟な職員です。私自身支援活動員として機能しているとは考えておりません。何を伝えたいか？まだ私達では役に立たない、行っても何をするのかわからない。そんなことはありません。とにかく石巻に足を踏み入れる事が重要だと感じます。

日々の多忙を極める中、なかなか活動に参加する時間を捻出するのは厳しいと存じます。本院も1人ワーカーですので、戻ってからは結構な業務多忙の厳しさを痛感しています。しかしながら、現地ではまだまだ様々な支援活動を必要としています。今後は活動内容も日々変化をしていくでしょう。現地スタッフだけでの対応にも限界があるでしょう。1人でも多くの方が活動に参加して頂けます様、御願い致します。

活動期間：2014年2月24日～2月26日  
西山 充子(大阪府 済生会吹田病院)

#### 感想：

二年ぶりに災害支援活動に参加した。二年前は、建物などに震災の影が多く残っていたが、建物は修繕されて見た目はほぼ震災前と変わらないのではないかと思った。しかし、活動の中で現地の方と話をしていると震災の時の話が自然と出てきて、今も表現しようのない想いを抱えながら生活していることがわかった。現地支援員から「建物が綺麗になっている分、被災者は震災がなかったかのように複雑な気持ちになっている。震災のことを忘れてほしくないという言葉をよく聞く」と話があり、被災者の家に訪問した時には「この話を大阪に帰って、みんなに伝えてほしい」と言われ、風化させないように周りに伝えていく使命があると思った。また、被災者が言った「生きている分、亡くなった人の分まで笑って、亡くなった人を笑って供養しないといけない」という言葉が強く印象に残っている。強く生きている被災者に、遠くから寄り添うには何ができるか考えたいと思う。

#### 活動を検討している皆さんへ一言：

現地の方からの話を聞かないとわからないことがたくさんあります。現地支援員の方がつないでくださっている現地での絆を少しでも広げられるように是非、活動に参加してもらいたいと

思います。

## \*\*\* 2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋） \*\*\*

\*\*\* 2/12 久保木 美由紀（現地担当）

ひきこもり家族グループ：雪道の影響で参加者0名であった。しかし、10年前から市内で不登校の親の会をされている方より2名のご家族を紹介頂くと共に、その方の活動、石巻市内のひきこもり支援団体がネットワークで支援していく必要性について話し合う。ひきこもりの方への支援を検討している団体があり、社会参加の場が広がっていることが分かった。

大森第3団地仮設住宅傾斜に係る説明会：今回は修繕に伴う仮設間の移動であるので、基本的に修繕期間だけの移動、短期間（約10日間）となる。短期間であること、居住しながらの修繕は可能か、応急処置でどうにかならなか等の質問が上がっていた。その背景にコミュニティが分かれることによりコミュニケーションが変化することによる精神的不安定への心配、引越に関する手続きの煩雑さ、健康被害への補償等が見受けられた。行政としては、該当世帯に来週から2週間かけて意向調査を個別に行う。この個別訪問時に住民の方の不安が多く出てくる可能性は高い。市よりその調査の際にMSWの同行を求められ、MSWへの期待を感じられた

\*\*\* 2/19 久保木 美由紀（現地担当）

ひきこもり等支援関係者研修Ⅱ（10時～15時30分）：宮城県でひきこもり支援を行っている各団体から活動報告。実践的な報告が多く、私たちの支援のヒントも頂いた。ある支援者の「いろんな欲を育ててあげないと。」との言葉が深く印象に残った。能力や力、やる気を引き出すという言葉よりも本人の自主性、こうありたいという姿を思い描き、それに向かっていく姿を想像した。参加メンバーは相談機関や、ひきこもり支援機関はもちろん、高校教諭の参加が多かったと感じた。後半のグループごとの情報交換会ではケース検討になり、不登校のまま退学となってしまう、なった生徒をどのように支援すればよいか、どこに繋がると良いのかを中心に話し合った。相談、支援機関があること、具体的な活動内容、繋ぎ方などを知ることにより不登校からひきこもり（長期化）に対して適切な支援へと繋がられる道筋が見えた等の感想が聞かれ、参加メンバーにとって意義であった。

からころ勉強会：アルコール依存症の理解というテーマでの勉強会であった。アルコール問題を抱えている人の割合では男性：女性は8：2、家族と同居している人も50%であった。アルコールは男性、独居のイメージであったがそうではないことが分かった事と震災前と震災後では出現率の変化がなかった。今後の課題として、普及活動と内科と精神科の先生の連携などが挙げられていた。

\*\*\* 2/25 久保木 美由紀 (現地担当)

保健コーディネーター会議:石巻市社会福祉協議会より来年度の仮設住宅支援の在り方について、社協が考える姿についての講話。健康調査後のフォローをしている各団体からの報告。各機関の最終目標は住民主体の地域作りであるということを再度、認識を統一する。支援に入ることによって依存心が増す結果となつてはいけませんが、相談内容としては根深いものも増えて来ているとの報告。関わっている機関がチームで情報共有をし、アプローチする事が必要。

河南ケース会議:関わっているケースは課題が深刻化、複雑化しているものである。課題ごとに支援機関が介入することが本人にとって負担になっているケースも有り、再アセスメントを行う。また、個人のニーズを同仮設内でどう支えていけるかを話し合われている報告もあり、個別ニーズを地域で考える取り組みも見え始めた。

\*\*\* 3/3 久保木 美由紀 (現地担当)

生活再建支援課ミーティング後ケース相談3件あり。新規仮設入居、音や臭いのトラブルによる移動希望ケースであった。仮設入居に関しては、施設や転院相談の対応と似ており、設入居カンファレンスは入所判定会議のようであった。隣人とのトラブルに関しても隣人同士が接触しないように課題をどう解決していくか、どこに介入するのか、とっかかりを探る等、日常的に MSW が行っているソーシャルワークが活かせる場であった。

\*\*\* 3.石巻での活動の様子 (FaceBook から引用) \*\*\*

\*\*\* 2/20 畑中良子 (現地担当)

昨日は地域の勉強会があった。

「アルコール依存症の理解～支援者にとってのアルコール理解～」がテーマ。

アルコール問題は独居の男性に多いというイメージであったが、アルコール問題を抱えている方の半数は家族と同居というデータが出ていた。(石巻、からころステーション アンケートにて)

男女比では8:2 震災前と震災後での出現率はほぼ変わらず

からころステーションに寄せられる相談内容の内訳で平成24年は6%、25年は11.7%。増加している。

相談経路としては保健師が圧倒的に多く、家族は10%に留まっている。

今後の課題として

- ①石巻地域の社会資源の活用と不足部分を行う支援づくり
- ②アルコール問題の予防と、正しい知識の普及啓発
- ③支援者への専門的知識の普及啓発
- ④男性が相談、参加しやすいイベント等の企画

- ⑤重症化、孤独死を予防する支援体制の構築、継続
- ⑥ニーズの変化を読み、素早く柔軟に対応すると挙げられていた。

「男のあそぼう会」は④から立ち上がった。  
課題を支援機関で共有しつつ、解決に向けて地域で考えていく必要がある。

\*\*\* 2/26 畑中良子（現地担当）

今日は定例の MSW 勉強会。  
インテーク面接について考えた。  
典型的な悪い面談と良い面談のロールプレイを見て、「良い点」「悪い点」を出来るだけ具体的に考えてもらう。  
個人ワーク⇒グループワーク、そして、シェア。  
グループワークを行うと、色んな意見、視点が知れ、気付きとなる。  
今回もそんな場面がたくさんあった。  
普段の面談はきちんとできているか？取り組めていたか？の振り返りにも繋がった。

普段の勉強会よりは参加人数が少なかったが、参加者からはプラスの感想が聴かれた。

\*\*\* 3/11 畑中良子（現地担当）

今日で東日本大震災から 3 年。  
河北総合センター(ビッグバン)では追悼式が行われた。

石巻地区は市役所、雄勝地区は雄勝総合支所仮設庁舎、河南地区は遊楽館、桃生地区は桃生総合支所、北上地区は北上保健医療センター、牡鹿地区は牡鹿保健福祉センターに祭壇と献花台が設けられた。

それ以外にも哀悼の意を込めて様々な企画があった。

2時46分、防災無線からのサイレンで黙祷。

石巻市の人的被害は死者数 3,166 人、行方不明者 434 人。

3 年。

この期間はこの地にとってどんな時間だったのだろうか。何が変化し、何が変化しないのだろうか。

復興住宅は立ち始めている、入居も始まっている。

鉄道も区間限定ではあるが再開されている。

しかし、復興が遅いというのが住民感情ではないだろうか。

犠牲になられた方のご冥福とこれからの復興をお祈りいたします。

## \*\*\* 4. 災害支援チームからのお知らせ \*\*\*

### 【1.協力員募集】

#### \*\*\* 現 地

1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

**但し、活動日数を3日以上でご参加お願い致します。**

年度最初の支援活動に参加される時には現地報告とその他の資料を郵送致します。ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

#### \*\*\* 事務所

引き続き募集しております。平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

### 【2.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ：[URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ：[URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

### 【3.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



\*\*\* URL \*\*\*

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

## \*\*\* 5. 事務所より \*\*\*

### 1. 石巻派遣職員 緊急募集終了のお知らせ

複数の方からご応募いただきました。ありがとうございました。

震災から3年が経過いたしました。改めて、犠牲になられた皆様にお悔やみ申し上げます。マスコミでは特集も多く生まれ改めて重大な出来事であったと感じます。風化しないこと、未来に向けた教訓を学ぶこと、我々の普段の生活に防災、減災の意識を常に持ち続けるためにも、知ることが改めて大切なことであると感じました。

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成26年3月24日 第3巻17号  
作成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会